

ライフケアガーデン熱川 本館

症 例 概 要 利用者：80代 女性 要介護2

病名 ： 認知症、高血圧症、糖尿病、老人性難聴（中程度）

1995年、夫の定年退職を機に伊豆へ移住。2004年に夫が逝去した以降は独居となる。

2022年4月、車で出かけたところ車内で身動きがとれなくなり警察に保護されたことから病院を受診。認知症と糖尿病の診断を受けるも服薬を拒否していた。その後認知症、老人性難聴、ADL低下が進行。主治医から独居困難と判断されたことから2024年9月に当施設入居となるも、一日中居室で眠り誰とも会話をしない生活が続いていた。

非言語刺激であるアロマケアと部署を越えた取り組みによって入居者さんに交流の意思が生まれるとともに、当施設での楽しみと笑顔が生まれた事例。

内 容

ご家族のお話によりますと、入居者さんはもともと社会的かつ活動的な性格で、言語能力にも特段の問題はございませんでした。しかし、認知症と老人性難聴の進行により会話の成立が難しくなり、聞き返すことへの煩わしさから他者との交流を避け、食事以外の時間のほとんどを居室で横になって過ごされていました。補聴器については管理が困難であるとの理由からご家族の意向により使用されておりました。

こうした状況を受け多職種によるミーティングを実施、全職種で入居者さんの状態改善に向けた支援を行うこととしました。入居者さんが比較的聴こえやすい右耳近くで話し掛けることを全部署で統一するとともに看護・介護職員は非言語刺激となるアロマケアを実施、食養・事務職員は離床と他者交流のきっかけとしてお茶会を企画、施設管理職員は清掃等での入室時にジェスチャーを交えながら右耳近くで話し掛けることとしました。

アロマケアを開始した当初はまどろむのみで表情の変化も乏しい状態でしたが、次第に活気ある表情を浮かべてくださるようになりました。お茶会や日常の声掛けにも初めは無反応に近い様子でしたが、徐々に笑顔を返してくださるようになり離床時間が増加、職員を見かけると自ら笑顔で手を振ってくださる場面も見られるようになりました。

アロマケアやお茶会の中で入居者さんは、お寿司と甘いものがお好きであること、ご主人と一緒に伊豆のお寿司屋さんやカフェを巡っていたことを語ってくださることがありました。このお話を受けて多職種

のメンバーでお寿司屋さんへの外食を企画・実施したところ、入居者さんはお寿司を美味しそうに召し上がり大変喜んでくださいました。

母の日に面会に訪れた長男様は会う度にかつての明るさを取り戻していく入居者さんの表情をご覧になり、「安心しました。」「母をいつもありがとうございます。」と、職員に感謝のお言葉を伝えてくださいました。

認知症と老人性難聴により人との関わりを閉ざされていた入居者さんが、アロマケアと部署を越えた取り組みによって笑顔と交流が生まれた本事例を、キラキラ介護賞として推薦いたします。